

皆が自分らしく豊かに暮らせる未来を希って。。。。。

社団法人 埼玉障害者自立生活協会

第18回定期総会

議 案 書

総 会 次 第

1. 開会
2. 理事長あいさつ
3. 来賓あいさつ
4. 総会役員（議長団・書記・資格審査委員・議事録署名人）の選出
5. 資格審査
6. 議事審議
 - ・ 第1号議案 2009年度事業報告について（案）
 - ・ 第2号議案 2009年度決算報告について（案）
 - ・ 第3号議案 2010年度役員選出について（案）
 - ・ 第4号議案 事務所の移転について（案）
 - ・ 第5号議案 組織変更（法人格）について（案）
 - ・ 第6号議案 2010年度事業計画について（案）
 - ・ 第7号議案 2010年度予算計画について（案）
 - ・ その他
7. 総会役員解任
8. 閉会の言葉

とき：2010年5月30日 10:00～12:00

ところ：大宮合同庁舎 3階大会議室

（〒330-0843 さいたま市大宮区吉敷町1-124）

はじめに

理事長 坂本 さとし

昨年の政権の変化により、「自立支援法」を廃案にして新しく「障害者総合福祉法」（仮称）を作る「障害者制度改革推進会議」が、国の方で開催されています。その中で、国連で議決された「障害者権利条約」を国でも批准するための国内法の点検作業も議論されています。

大きな流れとしては、障害を個人の特質ととらえ、障害の改善や障害克服の努力を個人に求めるこれまでの医療モデルから、障害を社会関係のあり方からもたらされるものととらえ、個人を含む環境を調整することに力点を置いた社会モデルへと、枠組みの転換がめざされています。こうした方向は、私たちが長年主張し、実践してきたものであり、歓迎します。

ただ、国の法制度改革は、地域社会のありかたを変えることに、ストレートにはつながりません。その意味で、上からだけの改革ではなく、さまざまな地域での関係の変革が問われています。そのような変化の中で当協会もいままで以上に存在が必要となると思われます。

当協会は、共に育ち共に生きることを基盤とし、障害者の自立生活が可能な地域社会の創出を目的として活動してきました、主として埼玉県内の小さな団体や個人が、一緒になってつくりました。個々の力は小さくとも、社会的啓発と公的な支援を得やすいようにと、いわば「共同の道具」として設立した法人です。しかし、その後、国の在宅福祉への転換や民間活力導入の展開の中で、当協会の会員も各地で NPO 法人などを取得し、福祉サービス事業を行うようになって来ています。

ある人は事業所の職員として、ある人はサービス利用者として各地で忙しく動いています。地域でのスケジュールが過密となり、全県的な活動への参加が難しくなっています。そのような中で当協会も変化して行かなければなりません。それではどのように変化すれば良いのでしょうか？

昨年度の事業で、一部分実施できず、内容的に見直しが必要な部分もあります。今後、地域活動の忙しさ、会の活動に参加する顔ぶれの固定化といった状況を踏まえて、個々の事業の準備過程から団体に参加を打診したり、個人への情報発信に力を入れることは重要です。

また、会員の皆さん、当協会の基本である「共に」を忘れていませんか？ 私や理事会も含め、あらためて、問い直したいと思います。これは就労、教育、生活などすべての場所で当協会の基本的な考え方です。そして、私たちが組織する当協会自体の運営も、「共に」を基準として、見直しが必要になっています。それぞれが地域で行っている事業や法人運営、各人の就労、教育、生活などの疑問や悩みを持ち寄って、当協会の事業を組み直してゆきましょう。こうした見直しを行い、国の動きも見据えながら、県や市町村への提言や協働を探ることが、私たちに問われているのではないのでしょうか。

障害当事者も、また共に動いている皆さんも、今年はおおいに発言し、語り合いましょう。

第1号議案

— 2009年度 事業報告 — (案)

1. 共に育ち共に生きることを基盤とし、障害者の自立生活が可能な地域社会の創出を目的とする県内団体及び個人の連携のための事業

(1) 介助ネットワーク

担当理事によるこの事業の検討は、09年8月11日、及び09年9月5日の定例理事会開催後の2回にわたって開かれた。ここでは、人との出会いが介助に関する人たちに片寄っている中で、「介助に関わる出会い、関わらない出会い」というテーマでイベントを開催することなどを検討していたが、実施に至らなかった。

(2) 相談援助事業

相談援助事業が地域の民間事業者に肩代わりさせられ始めた昨今、当協会の相談援助事業のあり方も厳しく問われてきている。昨年は、地域における実情や課題の把握を目標としていたため、担当理事が各地の相談援助事業の実情を把握するためのアンケートの作成まではしたが、それを実施して総括するまでには至らなかった。また、メールによる相談は1件だった。

2. 共に育ち共に生きることを基盤とする地域社会と障害者の自立生活の創出に必要な調査研究事業

(1) 情報ネットワーク事業

コンピューターやインターネットを使うことで障害をもつ人の暮らしを広げる可能性を探る目的と、情報集散基地としての役割のふたつを目指して始まった事業。今年度は、ホームページでの当協会と各団体のスケジュールの更新をしてきた。ホームページの機能を広げることを検討したが具体化には至らなかった。

(2) 埼玉県庁内「福祉の店 アンテナショップ かつぼ」

今年度は、専従が交代して営業する新しい年だった。前専従からの引継ぎもスムーズに行われ、5月には例年通り、第3週の20日、21日にかつぼフェスタが開催された。今回のフェスタも県職員のボランティアスクラブのフラワーアレンジメントや演奏が行われ、知事の来場もあった。フェスタ参加団体は17団体で、売り上げは30万円弱だった。

4年目となる県庁内職場体験も就業支援課、人事課（現・就業支援課）の実習と連携して計画され、1月から3名の実習生が三箇所職場体験を行った。

売り上げは、前年度に比べ大幅にアップしているが、昨年度末に設置された、自動販売機の売り上げが大きな割合を占めている。

3. 共に育ち共に生きることを基盤とする地域社会と障害者の自立生活の創出に必要な普及啓発事業

(1) 「通信」発行

「地域を越えた編集会議」及び「印刷・製本・発送の共同化」、「誌」の季刊発行と、それが発行されない月の「紙」の発行については、計画通り行われた。「誌」については、総会に向けた141号：第17回定期総会・記念シンポジウム・くらし「交」わり「通」い合う街へ（5月7日発行）、142号：総会記念シンポ報告及び「一緒に学ぶ」、「多世代で解く自立支援法」（6月26日発行）、145号：総合県交渉特集、148号：「障害者制度改革埼玉セミナー」ほか特集（月日発行と、計画通り4回発行した。「誌」が発行されない月は、「紙」という形での「通信」である「事務局だより」を発行してきたのは、前年どおり。

ただ、ブックレット第2弾づくりが遅れているため、県内各地の障害当事者を含む多世代の人々がからだで調査・研究する機会がなく、誌面への反映もできなかった。

(2) できるCLUB

この事業は、普段地域の活動で忙しく他の地域に目が向けられない人たちにも参加してもらえる企画を実施し、地域間や団体間の交流を図ろうとするものです。

今年度は、会員団体のイベントに参加して各地域、各団体との交流を深めることに重点を置き、実行委員会を17回開催した。8月1日(土)の朝霞市民まつり「彩夏祭」、10月24日(土)の所沢市民フェスティバルに「とことこの家」の店の手伝いとして参加した。2つの祭りではコバトングッズの販売や、会員団体と交流をした。実行委員だけでなく、各地の団体や会員にも準備の段階から関わってもらえるようにしていく事が、今後の課題。

(3) ノーマライゼーション・ブックレット出版

ブックレット編集委員会を継続し、以下の日程で8回の会合を開いた。

4月2日、4月30日、7月9日、9月16日、10月1日、10月29日、1月1日、3月18日。会場は、はあとねっと輪っふる（さいたま市）と地域活動支援センター・ねこの手（川口市）を利用させていただいた。

4月の二度の編集委員会では、予定しているブックレット第2弾の牧ロー二さんのセミナー「まちづくり」にからむテーマ（交通）で総会記念シンポが設定されているため、シンポパネラーの笹沼さんも含め、総会記念シンポの話をした。7月から10月までは、11月に予定した「子どものくらしとインターネット」イベントに向けた議論や準備を主に行った。

今年度は、第2弾のブックレットを編むための基礎作業として、県内や関西を調査する予定を立てていたが、いぜん民間助成金のめどが立たないことも含め、ブックレット第2弾計画の見直しが問われていると考える。

ブックレット普及活動の一つである「山にこもりましょう巡業団」は、毎月第3火曜日に、ねこのて（川口）・わくわく（浦和）・ノイエ（大宮）・ふらっと（新座）・パタパタ（春

日部)の5団体から集まり、ペープサートの練習を行った。今年度は各団体地元での練習のほかは9月めだかの会(草加)への巡業と、明治学院大学への講義への参加を行った。

4. 県内の関係各機関との連携・調整、情報提供、相互連携等の事業

(1) 公的な委員会

① 埼玉県障害者施策推進協議会

障害者施策推進協議会は、障害者基本法で都道府県ごとに設置が義務付けられているもので、県の障害者に関する総合的な施策を調査・審議したり、行政の各部局間の連携について調査・審議したりする重要な場として位置づけられている。今年度は当協会からは野島副理事長が委員として参加した。

今年度の協議会は2回開催された。7月に第1回目の協議会があり、自己紹介と各団体紹介や各委員の抱負などを話した。第2回目は11月に開催された。当初は、自立支援法の負担軽減などの改革案についての議論をする予定だったが、政権交代により自立支援法の廃止が浮上したためこの議論はされなかった。代わりに、座長の自立支援法についての講演があった。また、座長から今後は分科会形式のワーキンググループをもちたいという意見が出され、開催が決まった。この11月の協議会の決定を受ける形で2010年3月1日に第1回目のワーキンググループが開催された。

② 埼玉県福祉のまちづくり推進委員会

埼玉県福祉のまちづくり推進委員会は、平成7年に「埼玉県福祉のまちづくり条例」が制定された後、福祉のまちづくりの推進方策等について検討するために設置された委員会。今年度は当協会からは野島副理事長が委員として参加している。

今年度は2回開催された。9月は、新バリアフリー法についての意見交換と車椅子駐車場利用のマナーアップキャンペーンおよびパーミッションパーキングについて議論した。3月26日にはパーキングパーミッション制度について、川口市の事業説明などがあった。

(2) 当協会として、県内の他団体と相互連携している活動

① 埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会

埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会は、当協会と社会福祉法人 埼玉身体障害者福祉協会(埼玉身協)で構成団体し、当協会がかっぱ運営協議会の事務局を担っている。

今年度は、事務局会議を月1回行い、運営協議会総会は構成団体である社会福祉法人 埼玉身体障害者福祉協会と当協会に加え、店番団体も参加して、6月10日に開催した。店番団体参加の促進、経営努力の継続、県庁内職場実習の実施、かっぱフェスタの開催、イベントへの出店、共に働くことの普及啓発等について話し合った。

② 福祉の対象とされてきた人々も含めた就労・職場参加支援に関する連携活動

今年度は、政権交代、自立支援法廃止への動きが先行し、育成会など他団体と積み重ねてきた就労・職場参加支援に関する連携活動は、2008年度に引き続き、ほとんど行えず、

職場実習と施設外就労をあわせ、県庁を障害者が多様な形で働く場にしてゆくための県との話し合いもできなかった。ただ、2007年度に他団体と連携して、県の人事、福祉、就業、教育担当課が個別に実施している職場実習をひとつにまとめるよう働きかけ、2008年度から実現した職場実習における各課の連携は、今年度も引き続き行われた。

③ 分け隔てられず共に学び・育つことを支援する連携活動

「どの子ども地域の公立高校へ・埼玉連絡会」と県教育局との4回の話し合い(4月30日、6月19日、11月10日、2月5日)に参加した。

今年度は全県的な連携活動は行えず、会員が個々に集会に参加し意見を述べるに留まった。また、高校問題だけに偏り、義務教育段階での活動が行われていないが、今後は共に学ぶという原点に立ち返り活動を見直していく必要がある。2010年2月新政権の下にインクルーシブ教育推進議員連盟が発足し、国レベルでの改革への足がかりができてきたことは、今後大いに期待できる。

④ 県内の他団体と相互連携している活動

● 「こども☆夢☆未来フェスティバル2010」の参加について

子育て支援グループが中心となって行われる「こども☆夢☆未来フェスティバル(3月14日)」に今年度も参加した。当日はOMIYA ぱりあフリー研究会・パタパタ・赤いスイトピー・友愛学園・ぶあく・ねこのて、と6団体が一緒になって販売、将棋対戦、ボーリングなどを行った。月に一度の実行委員会へは事務局長ほか二団体から参加をした。また、当日のイベントに向けては参加団体(6団体中4団体)が2回の準備(2月9日・3月9日)も含め積極的な交流を持ちながら参加した。当協会内の団体が合同で行う新しい事業スタイルとなり、今後につなげていきたい。

● 「障害者制度改革・埼玉セミナー」の共同開催について

今年度は、国政の政権交代後の自立支援法の廃止を受け、情報の共有化の必要を感じ、埼玉障害者市民ネットワークと連携し「障害者制度改革・埼玉セミナー part1」をDPI事務局長の尾上氏を招き朝霞市で開催した。200名以上の参加があり大変盛況で、内容についても「障害者権利条約」について分かりやすかったなどの評価を得た。

● 「埼玉県民フォーラム」の共同開催について

埼玉県障害者協議会からの呼びかけで、「埼玉県民フォーラム」を開催する「12・3 埼玉県民フォーラム つくろう安心して暮らせる埼玉を！ さよなら！ 障害者自立支援法実行委員会」に参加した。12月3日に埼玉会館で開催され950人が集った。当協会からは、野島理事が地域で共に生きることの大切さを訴えた。

● 「暮らし見学会」について

今年度は、交通アクセス埼玉実行委員会と連携し11月18日(木)に暮らし見学会を実施した。行田市の個人宅と生活ホーム・なかまの家を見学した。行田市役所の担当者も4名参加。見学会の後、報告会を行った。

5. 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的達成に必要な事業

(1) 事務局

① 事務局

事務局・事務所会議を毎月1回開催し、新任の事務局長のサポートをするための情報交換の場として有効に機能した。また、隔月で開催される理事会の機能を補完した。制度や仕組みについての知識を深めるための学習会は、今期は開催に至らなかった。

② 事務所

昨年と同様西部地区の団体が協力し、火、水、木、金曜日に作業を行った。「事務局だより」を、5回発行した。

No140(4月)、No143(8月)、No144(9月)、No146(12月)、No147(2月)

西部地区に事務所を置いてから4年経った。この間特定の団体に負担をかけずに、複数の団体の構成メンバーが出来る範囲で協力しながら事務仕事を分担できた事はプラスだった。課題としては、主たる事務所と日常の業務を行う場所が異なることによる仕事の煩雑さや、事務仕事に関わる団体・個人の広がりはまだ少ないこと等が挙げられる。

(2) 会議

① 理事会・三役会議

今年度の理事会は8回行った。それぞれの事業の担当理事を決め、その担当理事が、担当者からの相談の受付や理事会への報告などを行いながら事業を運営した。また、今年度中に事務所の移転を行うための担当理事を決め「事務所移転検討会議」を数回開催した。

2007年度より公益法人に関する法律が改正されて公益認定ガイドラインが変わり、当協会が公益法人として活動する継続するのが難しい状況にある。公益法人制度改革の対応を検討するための担当理事を決め「組織検討会議」を行った。今後の方向を決めていく上でも、県内の団体が合同で事業を行いながら、法人の在り方を考えていける事業を小さいことからでも行う事になり、こども夢未来フェスティバルへの参加の仕方につながった。理事会の内容についてはその都度「通信」に掲載した。

2009年11月に監事をされていた阿部さんが病気により亡くなられたため、阿部さんの残任期間の補欠役員として内田さんを選任した。

② 社団・ネット合同事務局会議

埼玉障害者市民ネットワークと連携して情報交換や活動を進める「社団・ネット合同事務局会議」は、各地の持ち回りで準備していただき4回開催した。他に合宿実行委員会(5月)、ネットワーク合宿(6月)、合宿反省会及び総合県交渉会議(7月)、ちんどんパレード・及び総合県交渉(8月)、総合県交渉総括会議(9月)にも積極的に参加した。

第2号議案 — 2009年度決算報告 —

自2009年4月1日 至2010年3月31日

収入の部	科目	予算額	決算額	増減	適用
	前年度繰越金	619,257	619,257	100%	
	会費	1,000,000	858,000	86%	会員203名中 158名 納入済み
	寄付	100,000	150,759	151%	
	運営協力金	100,000	39,500	40%	
	小計	1,200,000	1,048,259	87%	
	雑収入	10,000	55,419	554%	総会講演会資料代、利息など
	小計	10,000	55,419	554%	
	助成金 雇用促進協会	200,000	834,300	417%	【助成金 雇用促進協会の内訳】
	助成金 共同募金赤い羽根	300,000	300,000	100%	職場介助者助成金 職場介助者の委嘱 73,990
小計	500,000	1,134,300	227%	・ 重度障害者等通勤対策助成金	
事業収入	90,000		0%	駐車場の賃借 59,060	
通信		0		・ 重度障害者等通勤対策助成金	
出版		7,500		重度障害者等用住宅の賃借 401,250	
小計	90,000	7,500	8%	・ 特定就職困難者雇用開発助成金 300,000	
収入合計	2,419,257	2,864,735	118%		

支出の部	科目	予算額	決算額	増減	適用
	人件費	700,000	725,045	104%	常勤給与
	厚生費	0	0		
	保険料	20,000	10,811	54%	
	小計	720,000	735,856	102%	
	事務局費	1,000,000			
	委託料		240,000		
	総会		72,211		
	事務用品費		30,722		
	通信費		110,938		
会議費		9,010			
交通費		25,510			
租税公課		1,895			
雑費		33,106			
小計	1,000,000	523,392	52%		
赤い羽根助成金(かっぼ)	300,000	300,000	100%		
小計	300,000	300,000	100%		
事業支出	100,000		0%		
普通		5,847		子どもたちは今、夢未来プロジェクト	
通信		78,131			
出版		0			
小計	100,000	83,978	84%		
予備費	299,257				
支出合計	2,419,257	1,643,226	68%		

収入済み決算額	2,864,735	
支払済み決算額	1,643,226	
差し引き額	1,221,509	繰越金

財産目録

2009年3月31日現在


一 資産の部		
Ⅰ.流動資産		
1 現金及び預金		
(1) 現金	123,812	
(2) 預金		
①通常貯金 郵貯銀行	24,728	
②振替口座 郵貯銀行	600,500	
③普通預金 三菱東京UFJ銀行蕨支店	472,469	
流動資産 計		1,221,509
Ⅱ.固定資産		
1 有形固定資産	0	
2 基本財産		
(1) 定期預金 武蔵野銀行武里支店	5,855,655	
3 その他の固定資産		
(1) 電話加入権・電話	0	
(2) 電話加入権・ファクス	0	
(3) 出資金	300,000	
固定資産 計		6,155,655
資産合計		7,377,164
二 負債の部		
Ⅰ 借入金	350,000	
負債合計		350,000


監査報告書

社団法人 埼玉障害者自立生活協会
第18回定期総会 議長殿

私たちは、去る4月30日、社団法人埼玉障害者自立生活協会の2009年4月1日から2010年3月31日までの会計（計算書類・財産目録・預金残高など）及び業務（使途目的・管理）の監査を行いました。

監査の結果、適正と認め、相違はありませんでしたので ご報告いたします。

監事 黒古次男 

監事 内田 誼 

第3号議案

— 2010年度役員人事（五十音順）—（案）

定款の第3章 役員及び職員（役員の任期）の規定により、任期満了に伴う役員の改選をします。

- 理事 飯田 力 NPO 法人 自立生活センター 遊 TO ピア（熊谷市）
猪瀬 佳子 ペんぎん村（さいたま市）
神田 正子 OMIYA ぱりあフリー研究会（さいたま市）
坂本 サトシ NPO 法人 コーヒータイム（朝霞市）
下重 美奈子 NPO 法人 上福岡障害者支援センター21（ふじみ野市）
瀬井 貴生 NPO 法人 とことこの家（所沢市）
武井 英子 NPO 法人 ふくしネットにいざ（新座市）
野島 久美子 埼玉障害者市民ネットワーク（春日部市）
藤川 雄一 NPO 法人 リンクス（川口市）
吉井 真寿美 たけとんぼの会（坂戸市）
- 監事 黒古 次男 どろんこの会（入間市）
内田 諠（宮代町）
- 相談役 八木下 浩一（川口市）
- 顧問 高橋 儀平 東洋大学 教授（坂戸市）
細川 律夫 衆議院議員（越谷市）
- 事務局 植田 涼 事務局長・常勤職員（所沢市）
今井 和美（野田市） 会員管理担当
大坂 富男（春日部市） 社団・ネット合同事務局会議担当
並木 理（所沢市）
増田 純一（川口市）
山下 浩志（春日部市） 通信担当
和田 優子（狭山市） 会計担当
- 事務所 東井 研二（新座市）
後藤 千佳子（新座市）

第4号議案

—事務所の移転について—（案）

4年間の契約の終了に伴い事務所を移転し、これに伴う定款の変更をする。変更部分に係る定款の新旧対照表は以下の通り。

現 行	変 更 案
第1章 総則 （事務所） 第2条 この法人は、主たる事務所を埼玉県新座市新座3丁目3番5-106号におく。	第1章 総則 （事務所） 第2条 この法人は、主たる事務所を埼玉県ふじみ野市霞ヶ丘3丁目1番24棟403号におく。

第5号議案

一 組織変更（法人格）について一（案）

2009年度は、当協会の今後のありかたについて担当理事や理事会などで話し合う場をもった。

当法人の今後の「カタチ」のありかたとしては、法人見直しの議論の中で、（1）公益社団法人に移行、（2）一般社団法人へ移行、（3）解散し特定非営利活動法人として再スタート、（4）解散し任意団体として再スタートの4案が考えられてきた。

今年度は、このうち、（1）の公益社団法人への移行については当協会の実態などから困難との結論を得た。また、その上でどのような形を取っていくかについては2010年度も引き続き検討を行い、2010年度中に方向性を定めることとする。

第6号議案

— 2010年度事業計画（案） —

1. 共に育ち共に生きることを基盤とし、障害者の自立生活が可能な地域社会の創出を目的とする県内団体及び個人の連携のための事業

度重なる制度改正を受け、生活相談はますます業務が複雑化している。しかし、法律や制度だけでは、障害を切り分けるだけで、生活のしづらさにはなかなか対応できていない。生活支援センターに限らず、各団体が行っている地域の現場で相談を受ける場面が増えてきているのではないだろうか。

今年度、「介助ネットワーク」では、地域での課題を掘り起こし、事前に具体的なテーマを絞って開催する。集った人たちが、共に考え意見交換をし、知恵を出し合う場とする。また、地域の現場で相談を受けている側の人たちの情報や意見を交換する場も設ける。解決策はすぐに出なくても、集まった人たちの情報や意見を「通信」などで、会員に発信し広く共有する。それらは個々の地域に返したり、「埼玉県障害者施策推進協議会」や「福祉のまちづくり会議」などを通して市町村や県や国へ働きかけていくことで可能性を見出していく。

2. 共に育ち共に生きることを基盤とする地域社会と障害者の自立生活の創出に必要な調査研究事業

(1) 情報ネットワーク事業

今年度も、ホームページの当協会や会員団体の予定、参考になるイベントの情報を更新する。当協会全体の体制の見直しと併せ、情報発信のひとつのツールとしてのこの事業のあり方を模索する。

(2) 埼玉県庁内「福祉の店 アンテナショップ かつぼ」

専従・店番団体に協力しながら、かつぼフェスタの開催、販売品目の検討、店番会議を開催する。また、売り上げ増収を目指すだけでなく、県庁内実習、イベントへの参加などを通して他団体との連携をとりつつ、店番への参加を呼びかけていく。

3. 共に育ち共に生きることを基盤とする地域社会と障害者の自立生活の創出に必要な普及啓発事業

(1) 「通信」発行

「地域を越えた編集会議」と「印刷・製本・発送の作業の共同化」、また、「誌」としての

「通信」を季刊として発行し、それが発行されない月は「事務局だより」としてコンパクトな「通信」を発行するという形は継続する。2010年度は、国レベルの障害者制度改革の動きをコンパクトに伝えるとともに、その動きと県・市町村レベルの共に学び・共に働き・共に生きる活動とのつながりやぶつかりあいについて、会内外の方々による誌上研究に努めるとともに、その成果を広く発信してゆく。

(2) できるでる CLUB

できるでる CLUB は、「様々な人を、巻き込んで、楽しく外に出よう」と、今年も引き続き活動する。関係団体のイベントに参加したり、各地域、各団体の交流を深めることにも努める。今年度の企画は、2回を予定。

(3) ノーマライゼーション・ブックレット出版

「子どもたちは、いま」を抱えての種まきの旅の積み重ねとブックレット第2弾づくりの準備の遅れを踏まえ、2010年度は年間3回の勉強会を行う。うち2回は「子どもたちは、いま」、もう1回はブックレット第2弾「まちづくり」に関わるテーマとする。勉強会の開催にあたっては、「埼玉障害者市民ネットワーク」、「どの子ども地域の公立高校へ・埼玉連絡会」、「交通アクセス埼玉実行委員会」などにも呼びかけ、共催の可能性を追求し、内容についても柔軟に相互調整する。

これらの事業を進めてゆくために、会員から希望者を募り、ブックレット編集委員会を組織する。

4. 県内の関係各機関との連携・調整、情報提供、相互連携等の事業

(1) 公的な委員会

① 埼玉県障害者施策推進協議会

障害者施策推進協議会は、年に2回開催予定だが、障害者計画の見直しの年でもあり、4つのワーキンググループを開催する予定。ワーキンググループは ①災害時の要援護者対策 ②権利条例等の在り方 ③地方分権時代における市町村障害福祉行政の在り方 ④高齢障害者対策の4つのテーマがあり、①～③と④の2つのグループに分かれている。

当協会としては、介助ネットや相談を受ける側の情報交換等をした中から出てきた実情を委員会につなげていく。

② 埼玉県福祉のまちづくり推進委員会

今年度から「福祉のまちづくり推進委員会」を発展的改編し、「福祉のまちづくり推進協議会」とした。条例の整備基準の技術的な検討や見直しを行ったり、既存施設のバリアフリー化の推進などについて専門的知見を有する学識経験者や当事者団体、事業者などで議論、検討する場となった。委員の定数が22名から16名となり、当協会への委員の派遣依頼はなかった。また、福祉関係団体から福祉のまちづくりに関する要望、意見を聞く「福

社のまちづくり会議」が設置された。

当協会としては、交通アクセス埼玉実行委員会などの地域連携の集まりの中で出てきた意見や課題を、会議へつなげていく。

(2) 当協会として、県内の他団体と相互連携している活動

① 埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会

今年度も当協会は、埼玉県身体障害者福祉協会とアンテナショップかっぼ運営協議会を構成し、事務局を担っていく。

県庁内職場実習の実践を踏まえ、今後も障害者の『働く』ということをかっぼの店番のさまざまな働き方を通して「かっぼジャーナル」などを発行しつつ伝えていく。

また、かっぼの運営基盤を堅固にしていくことを、毎月の事務局会議で考え、広く協力を求めていく。

② 福祉の対象とされてきた人々も含めた就労・職場参加支援に関する連携活動

国レベルの障害者制度改革推進会議の動きに連動し、自治体での実績の積み重ねとそれを踏まえた法制度改革への提案が問われている。

本県では、2007年度まで、当協会と育成会、埼玉協（埼玉身体障害者福祉協会）の全県の障害者団体が、就労・職場参加支援に関して連携し、県と協議・検討を重ねて、障害者職業開拓員の事業を受託したり、市町村就労支援センター事業を発足させたり、県庁内での職場実習を具体化させたりしてきた。障害者自立支援法をめぐる攻防の中で、団体相互の連携活動も2年間休止に追い込まれていたが、2007年度に共同で提案した、県庁内各課の職場実習の統合は、2008年度から実現している。こうした蓄積を踏まえ、今年度からあらためて仕切り直し、県庁内各課、各団体などに働きかけ、まずは障害者の就労・職場参加支援についての検討作業の場を出来るよう努めていく。

③ 分け隔てられず共に学び・育つことを支援する連携活動

今年度は「どの子ども地域の公立高校へ・埼玉連絡会」と協力し、ノーマライゼーションブックレット出版事業で計画をしている勉強会を年2回行う。第1回目は「選ぶしくみを疑うーこどもたちはいまー(仮)」というテーマ7月11日(日)、岩槻東口コミュニティーセンターで予定している。電話相談だけではなく、実際に顔を合わせるなどして、自分の近くの団体や人とつながることができるよう企画する。また、社団内の団体の協力をお願いしながらの、リレー教育相談会のような長期相談会の可能性も探っていく。

④ 社団・ネット合同事務局会議

埼玉障害者市民ネットワークとさらに連携を強め、09年度に共同開催した「障害者制度改革・埼玉セミナー」を継続開催していく。引き続き「障害者制度改革推進会議」の動向に注目しながら、内容については、学習検討を共に進める。

5. 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的達成に必要な事業

(1) 事務局

① 事務局

事務所の移転に伴い、新たな体制づくりを進める。会員同士、それぞれの事業をつなげた活動としていく。事務局・事務所会議を毎月1回開催する。

会員団体の状況や国・埼玉県などの行政の動きを把握し、「事務局だより」に地域の情報を増やしていく。制度や仕組みについての知識を深めるための学習会を開催し、会員との情報の共有を進める。

② 事務所

「事務局だより」の発行を始め、昨年と同様の業務を行う。

新たな事務所の周辺を中心として関わる団体・個人を広げ、特定の団体に負担をかけずに、複数の団体の構成メンバーが出来る範囲で協力していきたい。主たる事務所と日常の業務を行う場所が異なることは、引き続き課題として検討する。

(2) 会議

① 理事会・三役会議

理事会は、今年度も隔月で開催する。三役会議は、理事会の前に開催し、理事会の内容、議案について事前に検討する。

第7号議案 — 2010年度 会計予算案 —

自2010年4月1日 至2011年3月31日

収入の部	科 目	今年度予算額	前年度決算額	増減額	適用
	前年度繰越金		1,221,509	619,257	602,252
会費		900,000	858,000	42,000	
寄付		50,000	150,759	▲100,759	
運営協力金		50,000	39,500	10,500	
	小計	1,000,000	1,048,259	▲48,259	
雑収入		10,000	55,419	▲45,419	
	小計	10,000	55,419	▲45,419	
助成金 雇用促進協会		600,000	834,300	▲234,300	
助成金 共同募金赤い羽根		300,000	300,000	0	かっぱ
助成金		300,000		300,000	ブックレット
	小計	1,200,000	1,134,300	65,700	
事業収入		50,000	7,500	42,500	
	通信			0	
	出版			0	
	でるでる			0	
	小計	50,000	7,500	42,500	
収入合計		3,481,509	2,864,735	616,774	

支出の部	科 目	今年度予算額	前年度決算額	増減額	適用
	人件費		700,000	725,045	▲25,045
保険料		20,000	10,811	9,189	
	小計	720,000	735,856	▲15,856	
光熱費		24,000			
	小計	24,000	0	24,000	
事務局費		1,000,000	523,392	476,608	
	委託料			0	
	事務用品費			0	
	通信費			0	
	会議費			0	
	交通費			0	
	雑費			0	
	小計	1,000,000	523,392	476,608	
赤い羽根助成金（かっぱ）		300,000	300,000	0	
	小計	300,000	300,000	0	
事業支出		400,000	83,978	316,022	
	通信			0	
	出版			0	
	巡礼団			0	
	でるでる			0	
	小計	400,000	83,978	316,022	
予備費（繰越金）		1,037,509	1,221,509	1,037,509	
支出合計		3,481,509	2,864,735	1,838,283	

資料編

- 2009年度 活動カレンダー
- 2010年度 活動予定カレンダー
- である CLUB 活動報告、イベント収支表
- 団体一覧表

2009年度 活動カレンダー

4月

1	水	
2	木	ブックレット編集会議
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	でるでる CLUB 実行委員会
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	通信編集会議 事務局だより140号発送
15	水	
16	木	三役会議
17	金	
18	土	理事会
19	日	
20	月	
21	火	山にこもりましょう巡業団(新座) かっぱ運営協議会事務局会議
22	水	かっぱ店番会議
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	でるでる CLUB 実行委員会
28	火	
29	水	
30	木	ブックレット編集会議 教育局交渉(埼玉会館)

5月

1	金	事務局・事務所会議
2	土	
3	日	▼どの子も地域の公立高校へ ▼高校要望書づくり
4	月	
5	火	
6	水	第1回 事務局・事務所会議

7	木	社団・ネット合同会議(朝霞)
8	金	議案書 発送作業
9	土	
10	日	
11	月	でるでる CLUB 実行委員会 ▼どの子も連絡会議
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	山にこもりましょう巡業団(浦和)
20	水	かっぱフェスタ
21	木	かっぱフェスタ
22	金	▼ネットワーク合宿実行委員会
23	土	▼ネットワーク情報帳合・発送
24	日	総会 「くらし交わり通い合う街へ」
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	かっぱ運営協議会事務局会議
30	土	
31	日	

6月

1	月	
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	事務局・事務所会議
6	土	
7	日	
8	月	でるでる CLUB 実行委員会 ▼どの子も連絡会議
9	火	
10	水	かっぱ運営協議会総会
11	木	
12	金	
13	土	▼ネットワーク合宿
14	日	▼ネットワーク合宿

15	月	
16	火	山にこもりましょう巡業団（ねこのて）
17	水	
18	木	
19	金	▼教育局交渉（労働会館）
20	土	
21	日	
22	月	でるでる CLUB 実行委員会
23	火	かっぱ運営協議会事務局会議
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	

7月

1	水	通信142号 製本共同作業
2	木	
3	金	
4	土	理事会
5	日	
6	月	でるでる CLUB 実行委員会
7	火	▼ネット合宿反省会&県交渉準備会議
8	水	
9	木	ブックレット編集会議
10	金	事務局・事務所会議
11	土	▼「障害があっても一緒に学びたい埼玉交流会（埼玉会館）」
12	日	
13	月	▼どの子ども連絡会議
14	火	
15	水	かっぱ店番会議
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	▼どの子ども連絡会議（浦和コナレ）
21	火	山にこもりましょう巡業団（輪っふる）
22	水	
23	木	施策推進協議会に向けての勉強会

		&総合県交渉要望検討会
24	金	▼就学相談（上福岡西公民館）
25	土	
26	日	
27	月	でるでる CLUB 実行委員会 就学相談（上福岡西公民館）
28	火	かっぱ運営協議会事務局会議
29	水	埼玉県障害者施策推進協議会
30	木	総合県交渉 要望書 検討会
31	金	

8月

1	土	でるでる CLUB「朝霞市民まつり 彩夏祭」
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	事務局だより 143号 発送
6	木	事務所移転検討担当理事会 ▼交通アクセス実行委員会
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	▼どの子ども連絡会議
11	火	介助ネット・相談援助事業推進検討担当理事会
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	でるでる CLUB 実行委員会 かっぱ運営協議会事務局会議
18	火	
19	水	
20	木	▼ちんどん集会&パレード
21	金	事務局・事務所会議
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	▼ネットワーク総合県交渉
26	水	▼ネットワーク総合県交渉
27	木	
28	金	
29	土	

30	日	
31	月	

9月

1	火	三役会議
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	理事会
6	日	
7	月	でるでる CLUB 実行委員会
8	火	埼玉県福祉のまちづくり推進委員会
9	水	
10	木	埼玉県高校入試問題教育局交渉 輪っふる世話人会議
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	かっぱ運営協議会事務局会議 ▼どの子も連絡会議
15	火	山にこもりましょう巡業団（浦和 岸町公民館）
16	水	ブックレット編集会議 かっぱ店番会議
17	木	▼総合県交渉の総括 山にこもりましょう巡業団（めだ か）
18	金	事務所・事務局会議
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	相談援助・介助補助担当理事会議
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	法人格移行担当理事会議
30	水	事務局だより 144号 発送

10月

1	木	ブックレット実行委員会
2	金	
3	土	

4	日	
5	月	でるでる CLUB 実行委員会
6	火	
7	水	
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	
13	火	
14	水	
15	木	事務所移転検討会議 事務所・事務局会議
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	でるでる CLUB 実行委員会 かっぱ運営協議会事務局会議
20	火	山にこもりましょう巡業団（べし み）
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	でるでる CLUB「所沢市民フェスティバル」
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	ブックレット編集会議
30	金	
31	土	

11月

1	日	
2	月	
3	火	
4	水	通信145号 帳合・発送作業
5	木	
6	金	▼交通アクセス実行委員会 施策推進協議会事前検討・勉強会
7	土	理事会
8	日	
9	月	▼どの子も連絡会議
10	火	▼教育局交渉（労働会館）
11	水	

12	木	
13	金	
14	土	
15	日	ブックレット子供たちは今川口イベント
16	月	でるでる CLUB 実行委員会
17	火	山にこもりましょう巡業団(新座)
18	水	かつぼ店番会議
19	木	暮らし見学会(行田)
20	金	事務局・事務所会議
21	土	
22	日	交通アクセス(鴻巣)
23	月	
24	火	埼玉県障害者施策推進協議会
25	水	かつぼ運営事務局会議
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	

12月

1	火	
2	水	
3	木	埼玉県民フォーラム
4	金	でるでる CLUB 実行委員会
5	土	
6	日	夢未来フェスティバル実行委員会
7	月	埼玉県施策推進協議会
8	火	
9	水	事務局長の働き方について
10	木	事務所だより146号発送
11	金	社団・ネット合同会議(新座福祉の里)
12	土	
13	日	
14	月	▼どの子ども連絡会議
15	火	山にこもりましょう巡業団(明治学院大学)
16	水	
17	木	
18	金	事務所・事務局会議
19	土	
20	日	夢未来フェスティバル実行委員会
21	月	かつぼ運営事務局会議
22	火	
23	水	

24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	
31	木	

1月

1	金	
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	朝霞仕事始め
6	水	事務所だより147号編集会議
7	木	県庁あいさつ回り
8	金	▼教育局へ要望書提出
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	三役会議
13	水	
14	木	輪っふる世話人会議
15	金	
16	土	理事会、ワグミーティング 事前打ち合せ、夢未来フェスティバル実行委員会
17	日	
18	月	でるでる CLUB 実行委員会 ▼どの子ども連絡会議
19	火	山にこもりましょう巡業団(川口)
20	水	かつぼ店番会議
21	木	ブックレット編集会議(ねこのて)
22	金	事務局・事務所会議
23	土	
24	日	
25	月	かつぼ運営事務局会議
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	社団ネット合同会議(所沢)
30	土	
31	日	

2月

1	月	
---	---	--

2	火	
3	水	
4	木	
5	金	教育局交渉（北浦和労働会館）
6	土	WITH YOU さいたまフェスティバル
7	日	夢未来フェスティバル実行委員会
8	月	でるでる CLUB 実行委員会 ▼どの子ども連絡会議
9	火	夢未来フェスティバル打ち合わせ
10	水	事務局だより 147号 発送
11	木	
12	金	
13	土	障害者制度改革 埼玉セミナー-part1
14	日	
15	月	でるでる CLUB 実行委員会
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	
21	日	夢未来フェスティバル実行委員会
22	月	かっぼ運営協議会事務局会議
23	火	
24	水	▼教育局交渉（高校問題）
25	木	
26	金	事務所・事務局会議
27	土	
28	日	

3月

1	月	でるでる CLUB 実行委員会 埼玉県障害者施策推進協議会ワーキンググループ
2	火	
3	水	

4	木	
5	金	▼教育局へ再公開質問状
6	土	定例理事会
7	日	夢未来フェスティバル実行委員会
8	月	▼どの子ども連絡会議
9	火	「総会お知せ号」事務所便り発送 夢未来フェスティバル打ち合わせ(ノI)
10	水	事務所 朝霞スペース撤退 かっぼ店番会議
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	こども☆夢☆未来フェスティバル2010
15	月	でるでる CLUB 実行委員会 かっぼ運営協議会事務局会議
16	火	山にこもりましょう巡業団
17	水	かっぼ職場実習を振り返る会議
18	木	ブックレット編集会議
19	金	
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	
24	水	通信148号共同製本作業
25	木	社団ネット合同会議（春日部）
26	金	事務所・事務局会議 まちづくり推進協議会
27	土	
28	日	
29	月	共同募金会授与式
30	火	
31	水	

2010年度 活動予定カレンダー

4月	
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

2009年度 である CLUB 第1回企画 彩夏祭（朝霞まつり）の感想

今年度1回目の企画として、8月1日（土）朝霞市コミュニティセンター内のコーヒータ임売店で、第26回朝霞市民まつり彩夏祭での、かっぱのコバトングッズや、おせんべい・飲み物・手作りうちわ・お菓子などの販売を、行いました。模造紙や写真で、参加団体の紹介を、行い、総勢19名の関係者が、集いました。彩夏祭を楽しみながら、である CLUB を、行えました。

どんな人たちが、である CLUB に、参加したかということ、①並木②植田③大澤（熊谷・わんすてっぴ）④巴山⑤木村（ねこのて）⑥かとう（植田さんのタバコ仲間）⑦大沢（新座）⑧旧姓巢山さん親子⑨武井さん御夫婦⑩三浦さん御夫婦⑪土門さんとその友人⑫森住（パタパタ）⑬吉田昌弘⑭坂田ともこ（わらじの会・1年間ボランティア）⑮今井和美（通称“あんこ”さん）。

社団第17回定期総会後、月1回のペースで、話し合いをしてきたが、直前まで、話しがまとまらず、ゴタゴタしましたが、役割分担を、決めて、何とか動けました。「今の状態での、この企画は、いい。」という声や感想も聞けて、ホッとしています。

である CLUB の企画にご協力いただいた、かっぱや、わらじの会のみなさん、ありがとうございました。コーヒータ임の、三浦さんや土門さん、ふくしネット213の巢山さん親子、武井さん御夫婦、御協力ありがとうございました。吉田さん、コバトングッズでの大活躍、本当にありがとうございました。

【わらじの会】吉田 昌弘

最初にぼやきから、なぜに半年前の事を、しかも記憶力が特によろしくない僕にこんな文章を頼むのか疑問におもいます。実行委員でもないのに・・・。書かないとは言いません。なるべく記憶に新しい時に頼んで欲しかったなと。

であるクラブのことで事務局員である森住に誘われて参加しました。参加を決めた理由は森住曰く「であるクラブの資金を稼ぐために販売するのですが手伝ってください」と言われたからです。社団のお金だけに頼らず自分たちでも稼ぐことは良い事だと思ったからです。

当日は少し朝が早いことには閉口したものの何とか時間までには着くことが出来ました。思っていたよりも大きな祭りらしく市役所に続く道に余り見た事のない大看板がいくつも立っていたのには驚きました。

それはさておき、販売のことですが、僕が呼ばれた理由はこれだと思うんですが、僕の電動車椅子の後ろには主に介助者を載せるための荷台が搭載されています。それを活用し、うしろに商品をのせて移動しながら売る。いわば「引き売り」方式で行いました。売上は固定店舗よりは良かったのではないかと自画自賛しています。

おおむねこの企画は成功だったと思います。ただ一つ残念だったのは、であるクラブの広報

が弱かったなとも思いました。せっかくの機会だからピラとかあればとも思いました。

【パタパタ】森住 由香里

朝霞で行われた彩夏祭に、でるでるのメンバーで行きました。かっぱの品物とかお菓子とかを、売りました。その時初めて今年の3月まで1年間ボランティアだった坂田智子さんと販売しつつ、会場で行われていたソーラン節や（ハワイアン）アロハ踊りなど色々な踊りを見れて私自身も満足して帰ってくる事が出来ました。でるでるの課題だった（人を巻き込んでいく）というのは、出来ませんでした。実行委員同士で考え、実行できたことが売り上げに少しでも繋がって、朝霞のイベントが、達成できたことが嬉しかったです。

【ねこのて】木村 好志

コーヒータ임을借りて4時まで販売しました。販売は順番に交代しながら行いました。受付は出来ませんでした。今回も各団体からあんまり呼べなかったので心残りでした他団体も呼べるようにみんなと一緒に頑張っていきたいと思います
でもでるでるにとっても僕にとってもいい経験になりました。ありがとうございました。

【とことこの家 並木 理】

彩夏祭は、はじめに、イメージしていたものより、ずっと大きなお祭りだった。朝霞市コミセンでの販売が、無事できるか心配だったが、色んな人が、顔を見せてくれてホッとした。お祭りの雰囲気なども楽しめたようだ。お疲れ様でした。ありがとう。

【社団事務局】植田 涼

私は、人ごみが苦手だ。祭りには、出来るならば行きたくはない方だった。しかし、2009年8月1日（土）の祭りおよび人ごみは、違って見えた。たくましく踊るよさこいのダンサー達。優雅に踊るフラのダンサー達。そして、社団関連の埼玉県各地の人々。わさわさ人があふれている会場で、気分は悪くなったが、人のエネルギーを感じた。そのエネルギーに圧倒されたという面もあった。しかし、見ず知らずの人間同士が心を一つにしていける、そんなイベントに感動も覚えていた。「彩夏祭を成功させる！！」というか「祭りを楽しむんだ！！」という1心意気のようなものが会場全体に充満していた。ここに、障がいのあるなしは関係ない。人ごみの嫌いな私が、そんな風に肯定的に人ごみという同じ現象を捉えることが出来た奇跡的なイベント。それが、彩夏祭だった。これから社会にでてくる若い人たちにも是非とも経験をしてもらいたい。そんな感動的なイベントだった。

2009年度でるでる CLUB 第2回企画 所沢市民フェスティバルの感想

第30回所沢市民フェスティバルに行って、とことこの家の、お店を手伝おう。を合言葉に、10月24日(土)に、現地集合・現地解散で、主に、実行委員を中心に、参加者10名で、行いました。並木(とことこの家)、植田事務局長(所沢ファントム)、森住(わらじの会)、坂田(わらじの会)、石井(埼玉トヨペット輪っふる)、巴山(川口・ねこのて)、木村(川口・ねこのて)、今井(通称“あんこさん”)、大澤(熊谷・わんすてっぷ)、菊次(熊谷・赤いスイトピー)の、10名です。

当日は、なんとか、曇りが続き、販売ができました。4・5人ずつに分かれて、1時間交代で、とことこの家のお店と、でるでる CLUB を、知ってもらいました。電動・手動の車いすの人たちは、看板をつけて、フェスティバル会場を、ぐるりと動き、車いすじゃない人は、段ボールで作ったプラカードを、首からかけて、声を出しながら、販売を手伝いました。

10月19日(月)19時~21時には、模造紙や、段ボールなどで作った、プラカードや、看板の作業も、行いました。

新型インフルエンザなどが、流行っている中、でるでる CLUB として、活動企画を、2回行えて、実行委員みんなも、ホッとしていることと、思います。

【「でるでる CLUB」がやってきた！ とことこの家】中村 幹子

昨年10月末の土日、所沢市民フェスティバルに「でるでる CLUB」が参加して下さった。車椅子の方を含め10名、事前に並木さんからお話を伺ってはいたものの、大勢でビックリ。しかし、自ら作成したプラカードや看板など・・・やる気は、有り余るほど感じられた。挨拶もそこそこに、二班に分かれ、大きな掛け声で、「とことこの家」の販促をして下さった。曇り空の下、大きな声を出して、沢山のお客さんたちの目をひいた事だろう。「チヂミに味噌おでん、美味しいですよ〜！じゃがバター、いかがですか〜！」と。

2時間近く活動して、その後は、市民フェスティバルを楽しんで、帰路につかれたと思っていたが、代表者の瀬井さんと飲みあかしたようだ。無事故で帰れたかな？お疲れ様でした。ありがとう。また、来てね〜！

【とことこの家】並木 理

地元・所沢での、とことこの家のお店の手伝いと交流とあって、当日、雨が降らないか、天気が心配だったが、何とか曇り空の下、お手伝いできた。雨が降ってしまうと、せっかく事前に手作りのプラカードや看板などを用意するのに、台無しになってしまう。

社団の事業の1つである「でるでる CLUB」も宣伝できたようで、とことこの家のスタッフにも理解してもらえたように思う。各地域・各団体とのこういう形での交流は、ありかな。と思いました。

【ねこのて】 巴山 倫子

10月24日（土）に、所沢市民フェスティバルに、でるでる CLUB のメンバーで参加して、とことこの家の出店のお手伝いを、しました。当日は、曇り空でした。会場の航空公園は、広くたくさんの方が、たのしんでいました。でるでる CLUB は、前回の実行委員会で、とことこの家で販売される、味噌こんにゃく・じゃがバター・チヂミ・おしるこ・コーヒーの宣伝看板を作成し、当日看板を持って、客寄せを交代しながらやりました。チヂミが、完売しました。普段会わないので、とことこの家の人と交流ができて良かったと思います。チヂミと味噌こんにゃくを食べました。美味しかったです。とことこの皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。

【熊谷】 菊次 恭輔

私は、昨年でるでる CLUB として、初めて、所沢市民フェスタに参加させて頂きました。少し緊張していたせいか販売の時、あまり声が、出せていませんでした。でも、私個人的に、埼玉県西部地域の方々と交流が出来て、大変感謝しております。

今後も、少しでも、でるでる CLUB の会議に出られるように頑張ります。

【パタパタ】 森住 由香里

所沢で行われた市民フェスティバルにでるでるのメンバーで、参加しました。そこに、参加していた（とことこの家）のメンバーと一緒に、（味噌おでんいかがですか？）とか、声かけを2グループに分かれ、捨て看板を車椅子の後ろに付けて回りました。その効果もあって（おしるこは、どこで売っているんですか？）と聞かれたりして、捨て看板の効果があったので、その前の週にみんなで作って上げて良かったなと思いました。捨て看板で、回っているのは、でるでるメンバー位だったので、目立つ事が出来て良かったと思いました。

【わらじの会】 今井 和美

前年度の反省をもとに、2009年度の計画を立てているときに、「誰を対象にするのか？」「誰に声をかけたらいいのか？」「どうしたら来てくれるのか？」等の声が上がった。その時に、輪っふるの石井君が、「来てもらうためには、自分たちから相手のイベントに出向いて行って、関係を作るしかないですよ、うちの上司はそうしています。」と、つぶやいた。

これで、今年の方針は、決まったと思った。でるでる CLUB ほど、まめに集まっている事業はない。けれど、社団の会員や各団体の1人1人の顔も思い浮かんでこないのでは、声のかけようもない。自分たちの足元を知って行こう！が、2009年度の方針だと私は思った。

8月の彩夏祭では、地元珈琲タイムの方が、顔を出してくれたり、新座の人たちも手伝いに来てくれた。10月の所沢市民フェスティバルでは、とことこの販売かかりとして、祭りを楽しみ、ひたすら目立った。そのための準備は、それまで会議しか行わなかった、でるでる CLUB の集まり方に新しい動きを作った。

自分たちのお楽しみ CLUB と思われる節もあるようだが、とにもかくにも、まずは行動をするところからしかはじまらない。

でるでる CLUB は、今日も行く！なのだ。

【でるでる CLUB2009年度行った活動の感想】森住 由香里

2つのイベントをやってみて、いつも、でるでるの実行委員たちが悩むのが、人をなかなか呼べなかったり、どんな風にして外の団体と、繋がっていけるか、交流が出来るか、毎回毎回反省会で、出てくる問題です。周りの人が、何の企画をしたら来てくれるのか？で頭を痛めながら考えて行きたいと思います。私たちも楽しめて、参加者も楽しめるような企画作りを、今後も出来るように、最初の段階から、一人でも多くの意見を聞いて行きたいと思いますので、今年も宜しくお願いします。

【2009年度に行った彩夏祭、所沢市民フェスティバルに不参加した感想】新相 勝己

前年度のお菓子作り（シュークリームとクッキー）の、企画が、いろいろな調理器具を使い、初対面でもワイワイ楽しく出来たことが、とても印象に残った。今回の彩夏祭、市民フェスティバルの参加は、『目的のないお祭り参加で、販売を行い店番でボーっとしている』という、イメージが自分の中に浮かび、つまらない参加と思ったので、両方とも不参加だった。

私の中のでるでるクラブは、参加者が何らかの道具や楽器を使い地域の人達と、同じ目的や目標を立てることで、初対面でも楽しく参加できる、地域密着交流クラブだと思っていた。

お祭り参加で、販売もいいかもしれないが、物足らないものが、沢山あり納得が行かない一年となった。2010年は、道具や楽器を使い、達成感を味わえる楽しいクラブ、を作りたいです。

2009年度 でるでる CLB 会計報告

彩夏祭（8月1日）	収入の部		支出の部		残高
	販売収益	1,255	消耗品	294	
			保険料	560	
	収入合計	1,255	支出合計	854	

2008年度 でるでる CLB 会計報告

クッキー作り（9月6日）	収入の部		支出の部		残高
	参加費	10,200	経費	7,928	
			会場費	600	
			事務手数料	1,112	
			保険料	560	
収入合計	10,200	支出合計	10,200	0	

第2回でるでるオリンピック （10月19日）	収入の部		支出の部		残高
	参加費	10,000	経費	3,300	
			保険料	560	
	収入合計	10,000	支出合計	3,860	

【会員団体】

団体名	施設名・連絡先	電話
社団法人 埼玉障害者自立生活協会	新座事務所 〒352-0006 新座市新座3-3-5 新座団地106号	080-6608-1275
NPO法人 自立生活センター遊TOビープ	事務所「遊TOビープ」 〒360-0018 熊谷市中央1-14	048-526-6760
	就労継続B型 遊TOビープ(従)「赤いスイート」 〒360-0013 熊谷市中西1-1-1	048-526-6919
	介助派遣事業所「ライフルセンターくまがや」 〒360-0031 熊谷市末広1-64-2 YABELビル1階	048-521-1254
	就労継続B型 遊TOビープ(主)「わんすてっぷ」 〒360-0847 熊谷市籠原南1-225	048-533-2556
NPO 法人 自立支援センターハモニ	介助派遣「ハモニ」 〒338-0011 さいたま市中央区新中里4丁目15番2-101号室	048-832-3573
OMIYAぱりあがり研究会	心身障害者地域ケア施設「NEUE(ノイエ)」 〒330-0802 さいたま市大宮区宮町2-60 永見ビル1階	048-643-4422
キャパツの会	連絡先 木村俊彦	048-481-5393
NPO法人 にんじん畑	連絡先「にんじん畑」 〒352-0033 新座市石神2-4-8ほっと入-入包(ばお)内	048-483-2281
	店「喫茶」 〒352-0013 新座市新塚5061-14 福祉の里内	048-482-7077
NPO法人 ふくしネットにいざ	心身障害者地域ケア施設「ふらっと」 〒352-0004 新座市大和田4-14-1	048-479-3799
	介助派遣「ほっと」 〒352-0004 新座市大和田4-14-37 氷川荘102号室	048-479-7279
	生活ホーム「ぼちぼち」 〒352-0004 新座市大和田4-14-37 氷川荘	048-479-7279
NPO法人 上福岡障害者支援センター21	地域活動支援センター「協働舎」 〒356-0004 ふじみの市上福岡4-6-11 イデビル1階	0492-64-5497
	介助派遣「二人三脚」 〒356-0004 ふじみの市上福岡4-6-11 イデビル1階	0492-64-0990
	地域活動支援センター(ケア型)「くまのバカース」 〒350-1147 川越市諏訪町21-2 グレイビル102号室	0492-48-4780
	生活ホーム「生活ホームどり荘」 〒356-0005 ふじみの市上福岡西2丁目5-9	0492-64-0141
	グループホーム・ケアホーム「第一ひまわり荘」 〒350-1142 川越市藤間1066-1	049-247-4303
	グループホーム・ケアホーム「第二ひまわり荘」 〒356-0045 ふじみ野市鶴ヶ岡1-12-17	049-256-7995
さやまのバギン村	連絡先 門坂美恵	0429-59-3362
NPO法人 自立援助ホームとことこの家	介助派遣「とことこの家」 〒359-1112 所沢市泉町911-3	0429-39-9733
所沢 教育と福祉を問い直す会	連絡先 沼尾	042-949-2687
NPO法人 リクス	生活支援センター・地域活動支援センター「ねこのて」 〒333-0851 川口市芝新町15-9 アステル藤野 1階	048-261-5667
	就労継続支援A型「ねこのてデザイン工房」 〒333-0851 川口市芝新町14-9 梅宮ビル1階	048-261-5667

団体名	施設名・連絡先	電話
うさぎとかめ	連絡先 保立方	
蓮田福祉を考える会 風の色	連絡先 吉田宅 横井もも	048-768-2681
	店「夢ヲス」 〒330-0021 さいたま市大宮区東大宮4-24-16	048-664-9934
NPO法人 CILひこうせん	本部 〒361-0071 埼玉県行田市栄町22-5	048-555-1100
	心身障害者地域ケア施設「こころ」 〒361-0071 行田市栄町22-5	
	生活ホーム「なかまの家」 〒361-0023 行市長野4613-1	
	生活ホーム事業「レバト輪」	
	PAG「パーソナルアウトぎょうだ」 学童クラブ『きらきら』	

【会員がかかわる地域の団体】

NPO法人 コータイム	心身障害者地域ケア施設「レインの木」 〒351-0011 朝霞市本町2-4-26 3F	048-466-0778
	心身障害者地域ケア施設「オリーブ」 〒351-0011 朝霞市本町2-4-26 6F	048-461-8331
どろんこの会	連絡先 黒古次男	0429-62-8621
所沢交通システムを考える会	連絡先 一木昭憲	0429-98-5814
NPO法人 市民ホームなかま	自立生活センター「所沢ファクトム」 〒359-0045 所沢市美原町5-2026-7	04-2992-1310
どの子ども地域の公立高校 へ・埼玉連絡会	連絡先 竹迫和子	0489-42-7543
たけとんぼの会	連絡先 吉井ますみ	049-284-8466
埼玉県庁内福祉の店	店「アンテナショップ かつぼ」 〒331-8501 さいたま市浦和区高砂3-15-1 第2庁舎	048-830-7788
埼玉障害者市民ネットワーク	連絡先「黄色い部屋」 〒344-0021 春日部市大場690-3 谷中耳鼻科内	048-737-1489
重度障害者 職業自立協会	介助派遣事業所「ケアシステムわら細工」 〒344-0021 春日部市大場1288-1	048-738-4593
	店「アティック ぶあく」 〒344-0021 春日部市大場1288-1	048-738-0643
わらじの会 (福)つぐみ共生会	心身障害者地域ケア施設「ハコ外タ」 〒334-0022 春日部市大畑771-4	048-733-2743
	身体障害者通所授産施設「くらしセンターベシみ」 〒343-0037 越谷市恩間新田232-1	0489-75-8511
	生活ホーム「もんでん」 〒343-0037 越谷市恩間新田232-1 2階	0489-75-1021
	生活ホーム「カウイ」 〒343-0073 越谷市恩間新田232-1	0489-75-1524
	越谷市障害者生活支援センター「苞」 〒343-0033 越谷市大字恩間181-1 北部市民会館内	048-970-9393
NPO法人 職場参加を進める会	春日部市障害者生活支援センター「えん」 〒 春日部市大場1288-1	048-737-3011
	連絡先「職場参加ビル」 世一 緒 〒343-0023 越谷市 東越谷1-1-7 須賀ビル101	048-964-1819

団体名	施設名・連絡先	電話
ぺんぎん村	連絡先「ぺんぎん広場」 〒336-0024 さいたま市南区根岸1-1-20-102	048-866-3832
	心身障害者地域テ 々施設「わくわく」 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町1-14-9	048-825-0404
	介助派遣 一般社団法人「アソまれびと」 〒336-0024 さいたま市南区根岸5-2-19-101	048-837-1622
NPO法人 障害者自立セクタ- めだか	心身障害者地域テ 々施設「めだか工房」 〒340-0043 草加市草加1-7-13	0489-41-8001
はあとねっと輪っふる	輪っふる 〒338-8508さいたま市中央区上落合2-2-1埼玉トヨッット本社	048-859-4130
NPO法人 虹の会	虹の会本部 〒338- さいたま市桜区大久保1000-2階 システム研究室内	048-855-8438
	心身障害者地域テ 々施設「障害者生活ネットワーク うらわ」 〒338-0826 さいたま市桜区大久保領家574	048-855-8433
	介助派遣「虹の会 介助派遣システム」 〒338-0823 さいたま市桜区栄和6-2-8	048-851-7558
	店「虹屋」 〒338-0835 さいたま市桜区道場2-15-26	048-855-8438
地域自立支援 グループ あん	連絡先「あん」 〒365-0055 鴻巣市栄町5-30	048-542-9889
教育の 欠格条項をなくす会	連絡先 黒須	090-9817-8708
障害者の 社会参加を進める会	心身障害者地域テ 々施設「就労セクタ- 夢燈館」 〒338-0831 さいたま市桜区南元宿2-22-9	048-854-8221
	心身障害者地域テ 々施設「フッザ 夢燈館」 〒330-0065 さいたま市浦和区神明2-14-5	048-833-9665